

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

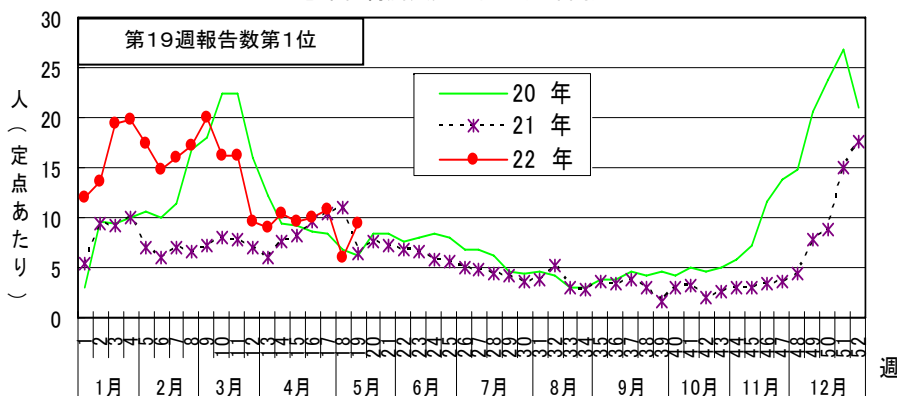
平成22年5月10日（月）～5月16日（日）〔平成22年第19週〕の感染症発生状況

第19週で報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) 水痘 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎となっています。

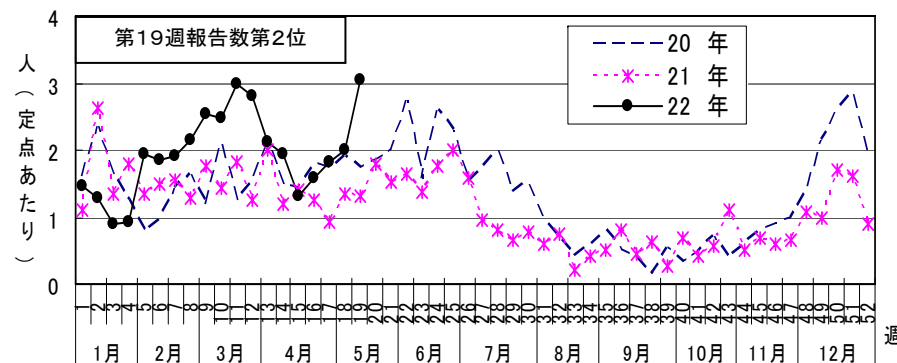
感染性胃腸炎が定点あたり9.34人と前週（6.06人）に比較して患者数は増加しております。

水痘は定点あたり3.03人で4週連続で増加しており、区別では、幸区と高津区で流行発生注意報基準値（定点あたり4人）を超えております（高津区は3週連続）。さらに、ヘルパンギーナなど（例年夏期に流行をみせる感染症）の患者数が増加しておりますので、今後の発生動向に注意が必要です。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



水痘発生状況(3年間)

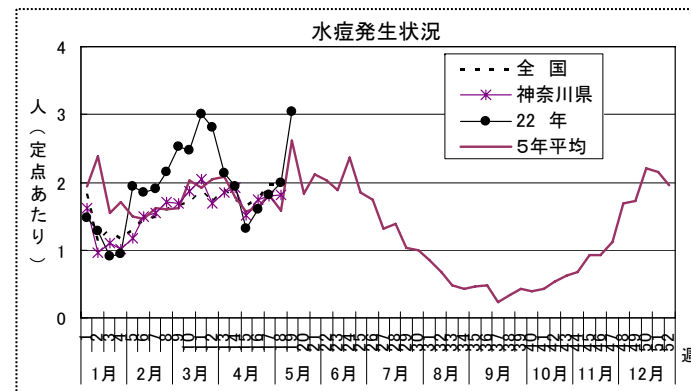


水痘(みずぼうそう)対策の徹底を！！

川崎市において、グラフにあるとおり、3月をピークに患者数が増加し、その後4月にかけて患者数が一時減少していましたが、ところどころ、4月の中旬から再び患者数が増加傾向にあります。特に、幸区と高津区では流行発生注意報基準値（定点あたり4人）を超えているため、今後注意が必要です。

* 症状

潜伏期間（2～3週間）を経過した後に、軽い発熱・倦怠感・赤い発疹等の症状がでます。発疹（お腹、背中や顔に発疹数200～300もしくはそれ以上）は水疱となり急激に全身に広がります。水疱は3日程度で乾燥し、黒褐色のかさぶたとなります。細菌性の2次感染をおこさなければ、通常は痕（あと）が残りません。健康な小児では、一般に予後・経過は良好です。



学校保健安全法での 取り扱い

水痘は学校保健安全法において、第二種感染症とされています。出席停止期間の基準は次の通りです。
○すべての発疹が痂皮（かさぶた）化するまで出席停止とする。ただし、病状により感染のおそれがないと認められたときはこの限りではない。

* ～感染しないように、また感染させないように～

水疱中のウイルスを含む飛沫や飛沫核による空気感染をおこします。感染力は麻疹に次いで強く、家族内感染発症率は90%以上です。最初の水疱が現れる1～2日前から、すべての水疱がかさぶたになるまでは、他の人に感染をおこすことがあります。

左にあるように、学校保健安全法で、水痘の出席停止に関する基準がありますので、感染してしまったら、通院以外の外出はなるべく控え、登校・登園については学校や主治医などと相談しましょう。

予防にはワクチンを接種することが有効です。通常は、1歳から接種できますが、任意接種（有料）ですので、医師に相談しましょう。